

学校名	宮城県多賀城高等学校
活動名	海岸沿いに位置する学校との「海の恵みと災い」についての交流
教科	英語
学年	3 学年

【活動のねらい】

本校は被災県であり、被災地により近い高校として今後海との関わり方について考えてきた。生徒が自ら震災について考え二度と同じ被害を繰り返さないように、「人とくらしを守る」という高い志を醸成し、職業として防災にかかわるだけでなく、地域や企業などの様々な組織でリーダーシップを発揮できる人材を育成することを目的として教育活動を行って来ている。

【実施内容】

一例として英語会話における授業の例を紹介します。



フィリピンから来日していた青年団との交流において、授業の中で生徒たち自らが調べ作り上げた資料を発表し、津波に対する防災の在り方について発表を行いました。

また、交流会の中ではお互いの国が海に面しており、その豊かな恵みと時には我々に危害を及ぼす可能性についてお互いの実体験を通して議論することが出来ました。

【成果と課題】

海外の方にこれまでの経験をわかりやすく説明するために、より意欲的に海に関する学習に取り組むことができた。一方、質問を受けた際に返答に戸惑うこともあり、生徒たち自身が調べた内容に至らなかった点があったようだった。この経験をもとにより深い学びにつなげて欲しいと願う。



3学年「海岸沿いに位置する学校との「海の恵みと災い」についての交流」

【活動のねらい】

本校は被災県であり、被災地により近い高校として今後海との関わり方について考えてきた。生徒が自ら震災について考え二度と同じ被害を繰り返さないように、「人とくらしを守る」という高い志を醸成し、職業として防災にかかわるだけでなく、地域や企業などの様々な組織でリーダーシップを発揮できる人材を育成することを目的として教育活動を行っている。

○時数 4月～1月 56時間（英語会話）
 ○関連 英語科

- 目標
- ① 防災学習プログラム 東日本大震災の検証や、日本・世界で起こる災害被害を調べ、防災・減災の基本知識を身に付け、自然環境との共存や人間社会の限界を理解し、東日本大震災の教訓、防災および減災に強い街づくりを発信する。
 - ② 自然科学学習プログラム 実験・実習、フィールドワークを通し自然災害について科学的視野から調べ、自然科学の原理や自然環境の多様性について理解し、研究成果の発表や自然災害のモデルを発信する。
 - ③ 国際理解プログラム 世界で発生している災害を調べ、海外生活者や外国人の話を聞き、異なる文化や価値観をグループ学習やワークショップを通して理解し、東日本大震災の被災と復興の様子を発信し、防災・減災についての取組を共有する。

